

# 『長野県農村医学会での演題発表を終えて...』

第82回  
長野県農村医学会学術総会  
古くて新しい農村医学  
現代における農村医学の課題を改めて考える

令和8年7月4日に、佐久市(当番病院…JA長野厚生連佐久総合病院)にて「長野県農村医学会」が開催され、当院からも多くのスタッフが参加してきました。

飯田下伊那からは少し離れた佐久市での開催となりましたが、県内の医療従事者が一堂に会し、地域医療の「今」について熱い議論が交わされました。



▲ 菅野院長の演題発表

当院からは、日頃の現場等での実践と工夫を結集した3つのテーマについて発表を行いました。

## 【当院からの発表演題】

演者

院長兼医療安全室室長

菅野 隆彦



『医療安全の地域連携・多職種連携』なぜ、徒党を組むのか』

平成26年7月より飯田下伊那8病院が連携し「みなみ信州医療安全ネットワーク」を構築し、協働で医療安全に取り組んでいます。

更に、平成30年には、病院相互ラウンドを開始しました。

また、同時に多職種連携を進めており、現在、長野県看護協会・長野県病院薬剤師会・長野県臨床検査技師会・長野県臨床工学技士会・長野県診療放射線技師会・長野県理学療法士会の6団体が連携しています。学会では、それぞれの具体的な取組みを紹介し、地域連携・多職種連携の有用性について発表させていたできました。

演者

透析室 臨床工学技士

新井 美香



『透析室における災害時離脱アクションカード改訂の取り組み』

災害時に患者さんの安全を素早く確保できるよう、現場の動きをわかりやすくまとめた「アクションカード」の改訂事例を発表しました。

離脱避難訓練を実施し効果を評価する中で、文字数を減らし、図解を取り入